

所内研修 「局長講話」「室長講話」

10月9日(木)に知花賢正事務局長を講師に『局長講話』として「組合(私たちの職場)のはなし～市町村行政の一部を担う団体として～」、南部広域行政組合の一般廃棄物処理施設建設準備室の山城匡室長に『室長講話』として「南部のごみ処理の現状について～南部は心は一つ～」について講話をいただきました。

【局長講話の概要】

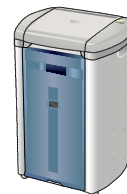
- 1 南部広域行政組合とは
- 2 組合の組織及び事業等について
 - (1) 地方自治上の位置づけ
 - (2) 組合の組織
 - (3) 組合の事業
 - 一般廃棄物最終処分場の設置及び管理運営
 - ごみ処理広域化計画及び施設整備
 - 視聴覚ライブラリーの設置及び管理運営
 - 島尻教育研究所の設置及び管理運営
 - (4) 組合の事業経費
- 3 組合を取り巻く状況と今後の展開
 - (1) 南部圏域内の組織一元化(統合)
 - (2) 市町村に代わる受け皿も可能
- 4 島尻教育研究所の話



写真1 局長講話



写真2 室長講話



【室長講話の概要】

- 1 DVD(ごみ処理に関する)視聴
- 2 ごみ処理の歴史
- 3 南部地区の現在のごみ処理の課題について
- 4 最終処分場建設に向けた取組状況

教育研究員の感想

今日の局長講話から、南部広域行政組合というものがどういった組織なのか、何のために設立されたのか等を知ることができました。地方公共団体には都道府県や市町村のほかに、特別地方公共団体があることも初めて知り勉強になりました。当たり前のように研究所があるのではなく、多くの方々の努力があって設立されたこと、運営にはたくさんの予算がかかっていること等を知り、改めて研究できる喜びと感謝の気持ちを持ちました。地域に還元できるように研究に励んでいきたいと思ひます。

室長講話では、私達にとって身近なゴミ処理に関するお話を聞き、いろいろと考えることが多くありました。ゴミの最終処分場建設にあたり、本当に多くの方々が大変な思いをしながら努力してきたことが伝わり、私にとっても関わりのあるゴミ処理を他人事、人任せにしていた自分を振り返り、胸の痛い思いでした。まずは自分にできることは何かを考え、ゴミを減らす、リサイクルを行う、そしてゴミについて子ども達と一緒に考える、等行動にうつしていけるようにしたいと思ひます。(稲嶺あゆみ)

学校現場にいる時にはほとんど耳にできなかった行政に関わるお話だったので、大変勉強になりました。南部広域行政組合の組織や設立された経緯等がわかり、多くの市町村が関わっていることを知りました。また一部事務組合がたくさんあることも初めて知りました。

局長のお話で印象に残ったのは、島尻教育研究所の設立趣旨・目的についてです。島尻管内の市町村の方々の思いや協力のおかげで私たちが研究所で研究する機会が与えられたことに対し、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れず、研究に励んでいきたいと思えます。

室長のお話を聞いて感じたことは、最終処分場を決定するまでの地域との交渉の苦労や大変さ、そして熱意を感じました。また、ごみ処理の方法や最終処分場の建設までの経緯を教えていただき、これまでの無関心さ、相手任せの姿勢を反省し、改善しなくてはと思えました。環境問題に配慮したごみを出さない暮らし方について学校現場でも児童と一緒に考えていきたいです。まずはごみを減らす事を考え、自分のできることから少しずつ取り組んでいきたいと思えます。
(安座名有里)

南部広域行政組合(一部事務組合)は、単独の市町村では賅いきれない行政課題を共同で取り組むことで財政の効率化を目指して設立されたことがわかりました。私たちの身近なものには、消防や清掃工場などがありなるほどと納得したものもあれば、全国には、病院や卸売市場などもあり驚きました。地域に根ざした組合は大事だと感じました。

島尻教育研究所の設置当時の話も聞けました。興味深かったのが、県立教育センターだけでは、研究する教員が限られてくる。そこで、島尻でも研究する機関を作ろうと、当時の教育長が立ち上がったこと。さらに、「島尻地区における教育研究の中核的存在とする。」とし、これまでたくさんの修了生を輩出してきてことです。多くの方々の思いがあって設立されたことや、先輩方が築いてきた20年の伝統を大事にし、研修に励みたいと思えます。

普段何気なく出すごみが最後にたどり着くのは…。最終処分場が他地域(中部・県外)にあること。「自区内処理」が大原則。「よく考えて捨てる。」など話の中で何度かとさせられたことだろうか。身近な自分たちの問題をどこか遠くのこのように見ていた自分に気づかされました。児童を通して広く伝え自分たちの問題として考えていきます。

建設場所決定の話と設計方法を聞いている時には、私もうきうきしてきました。前進できた喜びが伝わってきました。設計に関する話や地域に対する思いも熱く、よりよいものを創り出すこと、絶対に地域の方へ損はさせない心遣いが感じられました。また、灰を洗い不純物を取り除く全国初の方法が成功することを心より願っています。
(勢理客貴之)

南部広域行政組合について、あまり知識がなかったが、今回の研修において市町村や都道府県の事務の一部を行っていることやその成り立ちについてわかりました。特に島尻教育研究所ができるまでは、県のセンターに研修に行っていたことや、市町村単位で運営している研究所では受け入れが1~2人がほとんどということを知り、今回、ここで研修させて頂けるありがたみを再度感じています。

私は4年生を教えていたので、社会科では「ごみはどこへ」という単元の中でゴミ処理について子どもと一緒に学びましたが、最終処分場をつくるのがこんなに大変だとは思ってもみませんでした。いやな物をみないようにすることは未来に先送りすることなんですね。学校で子どもと一緒に考えてみたいと思えました。

(比嘉俊雄)

行政の仕組みを一部垣間見る機会が持てて良かったです。南部広域行政組合が、特別地方公共団体であり、市町村の業務の一部を共同処理するために存在していることがわかりました。「組合」「連合」を称する団体は、市町村行政の一部を担う団体であるという認識を持つことができました。今回お世話になる島尻教育研究所の運営母体である南部広域行政組合は、教員にとって貴重な存在です。何千万という額を負担して頂いて私たちは研究させてもらっていることを肝に銘じておきます。長期にわたる研究の機会を身近な地域で得られることに感謝します。そして、地域の生徒に還元できる研究ができるよう気持ちを引き締めていきたいです。

「自区内処理」という新しい言葉を知ることができました。使ったら消費するまでは責任をもつのが当然、という認識を新たにしました。最終処分場建設は、その中心となって進めてきた山城さんだからこそ、語れることだと思えました。最終処分場の建設地が決まっても、それが解体された後の利用までも見越して進めているこのプロジェクトは壮大な事業だと思えます。紆余曲折をたどってきたこの事業が、最終処分場として稼働を始めるまで大変だと思えますが、山城さんのご苦労に近い将来報われることを願っています。貴重なお話が聞けました。ありがとうございました。
(古謝栄子)